

福岡県の戦争遺跡

講演

◆戦争遺跡を考える ――福岡県を中心に――

有馬 学 氏 (福岡市博物館長)

近年の戦争遺跡への関心の高まりは、それが急速に失われつつある事への対応であると同時に、戦争が遠い存在となり、その遺産に冷静に向き合うことが可能になったことの反映でもあります。福岡県でも本格的な調査がはじまった今、改めて戦争遺跡の意味を問い直します。

報告

◆「福岡県戦争遺跡調査」の概要

小川 泰樹 氏 (九州歴史資料館 文化財調査室 参事補佐)

福岡県教育委員会では、平成29年度から3箇年の計画で「福岡県戦争遺跡調査」を実施しています。その必要性と目的、事業の概要、最終年度にあたっての調査の現状、今後の方向性について、調査担当者が解説します。

◆北九州市の戦争遺跡

前蘭 廣幸 氏 (特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会 理事長)

古代から交通の要衝で、明治維新後「西海道鎮台」設置を端に軍都化と、「官営製鐵所」開設後急速に産業都市化した北九州市は、日本有数の防空要地でした。いまもなお数多く現存している、明治から昭和に構築された北九州市の戦争遺跡について紹介します。

期 日 令和元年 **6月22日(土)** 13:00~16:00 ※受付開始 12:30

会 場 **福岡県立図書館** レクチャールーム (福岡市東区箱崎 1-41-12)

定 員 **130名** (事前の申込が必要です。) ※申込用紙は裏面

参加費 **無料**

主催 福岡県教育委員会

共催 福岡県地方史研究連絡協議会 (福史連)

